

企画展 芥川龍之介 田端転入110周年記念

作家・芥川龍之介の はじまり

～書齋「我鬼窟」誕生までの物語～



2024年
10月5日 土

**入場
無料**

2025年
～**2月2日** 日

※休館日を除く

会 場：**田端文士村記念館**

【JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分】

開館時間：**10:00～17:00**（入館は16:30まで）

休 館 日：月曜日（祝日の時は火・水曜）
祝日の翌日（土・日の時は翌火曜）
年未年始（12月29日～1月3日）

【主催】（公財）北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171
【共催】東京都北区

芥川龍之介（大正6年8月撮影）
『芥川龍之介全集』第1巻（岩波書店 昭和9年）

背景の文字は、新収蔵の芥川龍之介山本喜吾司宛書簡および葉書から抜粋

作家・芥川龍之介のはじまり ～書齋「我鬼窟」誕生までの物語～

芥川龍之介は文学へ進む決心をした高校時代の出来事について、妻・文に語っていました。

木の葉の一つ一つが、思い思いの形に揺れているのを見てると、創造の世界の素晴しさ、美しさに魅せられて、文学を終生の仕事にしてみたいと、痛切に感じた

芥川文述・中野妙子記「追想 芥川龍之介」(筑摩書房 昭和50年)

輝かしい作家人生を夢見る一方、若き芥川は友人への手紙の中で、将来への不安をたびたび吐露しています。本展では、芥川が文学へと目覚めた高校時代から、専業作家として立つまでの「作家・芥川龍之介のはじまり」の物語を、芥川が残した言葉から紐解きます。

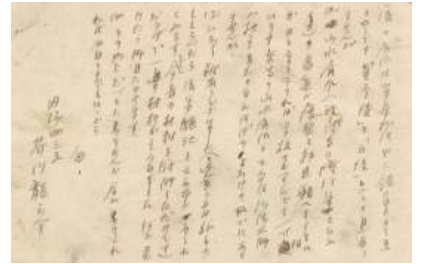
新収蔵の“芥川龍之介直筆資料”多数公開!!

第一短篇集『羅生門』刊行の頃に揮毫!? 漢詩幅 「本是山中人 愛説山中話」



愛用のペン皿に刻ませるほど好んだ五言の対句

「地獄変」「道祖問答」… 創作に影響を与えた 博識な同級生・谷森饒男に宛てた葉書



大正5年2月22日 ※寄託資料

希望と悩みを綴った親友・山本喜喜司への手紙



※いずれも吉田精一旧蔵資料

1. 明治42年8月4日(葉書) 中心に「敬」の文字が入った四つ葉のクローバー
2. 明治43年8月5日(葉書) 愛読したロシアの作家・ドストエフスキーの似顔絵
3. 明治44年4月【推定】25日(書簡 部分) 当時暮らしていた新宿の「僕のある二階家」周辺地図
4. 大正元年12月6日(葉書) ドイツの劇作家による作品の一幕をイメージした絵

主催・問合せ

(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171
JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分 ※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>
@bunshimura

(仮称)芥川龍之介記念館 ▶▶▶ 最新情報

2026年度、東京都北区は田端1丁目の旧居跡地に(仮称)芥川龍之介記念館を開館する予定です。芥川を単独で顕彰する日本初の記念館では、書齋の再現をはじめ庭や建物にも意匠を凝らし、当時を「体感」できる施設を目指しています。現在、北区では記念館の書齋再現にかかる経費に対して、寄附の受付をしております。魅力ある記念館開館に向け、ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

【寄附のお問合せ】 北区役所文化施策担当課 ☎ 03-5390-0093 (平日8:30~17:15)

【寄附の方法】 スマホやPCから or 納付書を使って金融機関から



詳しくはこちらをご覧ください。



(仮称)芥川龍之介記念館 完成予想図